

# 平成25年度

## 登録左官基幹技能者認定試験問題解答 (60分)

### 関東ブロック

受講番号		氏名	
------	--	----	--

1. 試験時間 60分

2. 問題数 25題 (四肢択一法)

3. 注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
- (2) 受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
- (3) 本冊子は、表紙を含めて10頁です。次に、問題数を確かめてください。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合には、黙って手を上げて申し出てください。
- (4) 試験開始の合図で始めてください。
- (5) 解答の方法は、次のとおりです。
  - ①正解と思うものを、1～4の番号の中から1つだけ選んで、解答用紙の解答欄にその番号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
  - ②解答を訂正する場合は、訂正する解答を、プラスチック消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。  
消し方が不十分な場合は、2つ以上解答したこととなり正解としません。
  - ③受験番号および選択した番号を正しく記入していないものは、採点せず全問題を0点とすることがあります。
- (6) 電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- (7) 試験中、質問があるときは黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
- (8) 答案ができあがったら、監督者の指示に従って提出してください。ただし、試験開始30分以内の場合は、退出できないので、静かに着席しててください。

一般社団法人 日本左官業組合連合会

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

**問題 1 登録基幹技能者の制度に関して最も不適当なものはどれか。**

1. 基幹技能者制度は、建設省が平成 7 年 4 月に策定した「建設産業政策大綱」において『新しい技能者像』として基幹技能者を重点的に確保育成できるようにすることが求められ、平成 8 年に専門工事業団体による民間資格としてスタートした。
2. 平成 19 年に中央建設審議会において「法令に基づく制度化を前提に、基幹技能者を優遇」することが承認された。
3. 平成 20 年 1 月に建設業法施行規則が改正され、従来民間資格であった基幹技能者は、新たに「登録基幹技能者制度」として位置付けられることになった。
4. 平成 20 年 4 月以降に国土交通大臣が登録した機関が実施する登録基幹技能者講習の修了者は、登録基幹技能者として認められ、経営事項審査においても加点評価（1 点）の対象となった。

**問題 2 上級左官技能者（職長等）の果たす役割に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. あらゆる職種に応じた必要資格を有すること。
2. 優れた直接的施工能力があること。
3. 担当工事現場の責任者として工程・施工・安全等の管理を行うこと。
4. 作業の指揮・指導を行うこと。

**問題 3 施工体制台帳への基幹技能者等の資格の記載に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 基幹技能者制度の普及、活用及び資格取得者へのインセンティブ向上等の一環として、建設業法に基づく施工体制台帳に基幹技能者資格の記載ができる。
2. 施工体制台帳への資格の記載に関しては、主任技術者の資格の内容を記述することができる。
3. 施工体制台帳への資格の記載に関しては、基幹技能者資格名を関連資格として積極的に記載することができる。
4. 施工体制台帳は、下請けの工事業者名等は記入しなくても良いこととなっている。

問題4 国土交通省地方整備局等における総合評価落札方式の評価項目に関して、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 基幹技能者の配置と役割等の技術提案
2. 企業の発言力
3. 現場従事技能者の施工能力等
4. 配置予定建設技能者の表彰実績および登録基幹技能者の配置等による企業評価

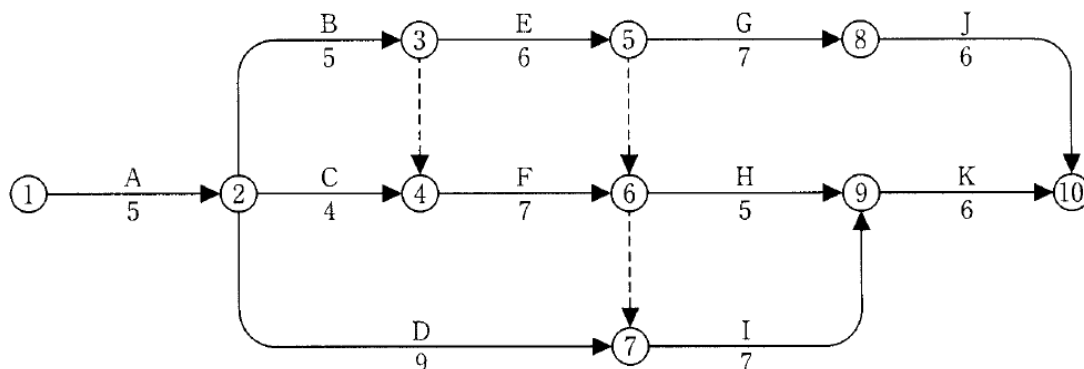
問題5 元請企業団体における登録基幹技能者等を支給の対象とする優良職長手当制度に関して、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 施工品質の確保や向上
2. 安全通路の確保
3. 作業工程の安定・短縮
4. 施工に関する提案や調整

問題6 OJT教育における指導・教育の基本認識に関して、**最も不適当なもの**はどれか。

1. OJTは上司の仕事そのものであり、上司と部下との信頼とコミュニケーションが重要である。
2. 登録基幹技能者のペースに合わせる等の指導育成が重要である。
3. 仕事のペースは落とさない等、継続的に日常的に実施することが重要である。
4. 外部との接触の機会を提供すること等、幅広い職務能力のある優秀な技能者の育成をすることが重要である。

問題7 図に示すネットワーク工程表に関して、最も不適当なものはどれか。



1. 工程表において、①から⑩までの総所要日数は、31日である。
2. 工程表において、作業JのLST（最遅開始時刻）の日数は、24日である。
3. 作業Gのトータルフロートの日数は、1日である。
4. 工程表において、作業Dと作業Gがそれぞれ2日間遅延したときの総所要日数は、31日である。

問題8 建設業法上、契約書面に記載しなければならない事項に関して、最も不適当なものとはどれか。

1. 当事者の一方から設計変更又は工事着手の延期若しくは工事の全部若しくは一部の中止の申出があった場合における工期の変更、請負代金の額の変更又は損害の負担及びそれらの額の算定方法に関する定め
2. 天災その他不可抗力による工期の変更又は損害の負担及びその額の算定方法に関する定め
3. 価格等の変動に関しては、契約時のものを使用し、請負代金の額の変更は認められないことの定め
4. 工事の施工により第三者が損害を受けた場合における賠償金の負担に関する定め

問題 9 建設工事標準下請契約約款において、一定規模以上の解体工事等の場合、その一定規模の内容に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 建築物に係る解体工事では、当該建築物（当該解体工事に係る部分に限る。）の床面積の合計が 100 平方メートル以上のもの
2. 建築物に係る新築又は増築の工事…当該建築物（増築の工事にあつては、当該工事に係る部分に限る。）の床面積の合計が 500 平方メートル以上のもの
3. 建築物に係る新築工事等における請負代金の額が 1 億円以上のもの
4. 建築物以外のものに係る解体工事又は新築工事等の請負代金の額が 500 万円以上のもの

問題 10 ブレーンストーミング(BS)の手法を用いて行う場合に関して、最も不適当なものはどれか。

1. BS は、自由奔放に発想することから、アイデアではなく、画一的な意見が誕生することが多い。
2. BS のルールは、他人の意見を批判することなく、アイデアを数多く出し、自由奔放に発想することが最も重要とされている。
3. BS は、他人の意見やアイデアに自分の考え方を便乗させ、応用して組み合わせたり、便乗すること等を発展させて考えるとよい。
4. BS は、自由奔放に発想することが良いとされており、常識・経験・理屈はBSと無関係である。

問題 11 塗り壁の故障の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 下地の吸水小 — はく離・ひび割れ — 吸水の適正化をはかる。
2. 不純物を含む砂 — 強度不良・ひび割れ — 洗浄・取り替える。
3. 細かい砂 — 網状ひび割れ — セメントを追加する。
4. さび止めしない鉄部 — さび発生（せっこうプラスター） — さび止めを行う。

問題 12 仕様書に組み合わせに関して 最も不適当なものはどれか。

1. 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 — 公共建築工事標準仕様書
2. (一社)日本左官業組合連合会編 — 左官施工法 2013
3. 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 — 建築工事監理指針)
4. (一社)日本建築学会編 — 建築工事標準仕様書 JASS 19 (左官工事)

**問題 1 3 左官のひび割れ・劣化の記述に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 左官下地と左官塗り壁は、温度変化、湿度変化などにより常時伸縮を繰り返している。
2. (一社) 日本建築学会の「鉄筋コンクリート造のひび割れ対策 設計・施工指針、同解説」(1990年)でひび割れ幅は、0.3 mm以下としている。
3. モイスチャームーブメントとは、塗られたモルタル等に太陽や直射熱の繰り返しで温度変化に伴って伸縮、反り等の変形挙動がおきることである。
4. 左官下地と左官塗り層との寸法変化(ムーブメント)の差が大きい場合は、ひび割れ・剥離が生じる。

**問題 1 4 セメントモルタルの表面仕上げの記述に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. セメントモルタル張りタイル下地は、木鏝仕上げにする。
2. 壁紙張り下地、防水下地は、金鏝仕上げにする。
3. タイル接着剤張り下地は、刷毛引き仕上げにする。
4. 吹付け下地の刷毛引き仕上げは、木鏝でならした後、金鏝で軽く押さえ、刷毛で刷毛目正しく粗面に仕上げる。

**問題 1 5 JIS A 6909 (建築用仕上塗材) の仕上塗材の種類および呼び名の記述に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 外装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材 — 外装薄塗材E
2. 内装消石灰・ドロマイトプラスター系薄付け仕上塗材 — 内装薄塗材L
3. 内装水溶性樹脂系薄付け仕上塗材 — 内装薄塗材W
4. 内装せっこう系厚付け仕上塗材 — 内装厚塗材C

問題 16 コンクリート表面の処理方法に関して、最も不適当なものはどれか。

枝番	処理方法	適用目的	概要	留意点
1.	高圧水洗浄	目粗し、脆弱層の除去	高圧水洗いの吐出圧力50～150N/mm <sup>2</sup> 、吐出圧と運行速度は、コンクリート強度などによる。	必要な粗さを設定でき、作業者によるばらつきが少なく、施工管理が比較的容易、下階への水対策を検討する必要がある。
2.	サンダー掛け	目粗し、脆弱層の除去	ディスクサンダーあるいは、カップサンダーによって、コンクリート表面を目粗し、水洗いにより表面に付着した粉塵を除去する。	特別な工具を必要とせず、作業は容易、埃や音の発生がある。施工のばらつきが出やすいので、見本などを作製し管理する。
3.	ブラシ掛け	清掃、脆弱層の除去	刷毛あるいは、左官用ブラシによりコンクリート表面を擦り、塵埃や脆弱層を除去する。	作業は簡単だが、施工管理が曖昧となりやすい。水洗いを併用する。
4.	専用シートによる凹凸処理	コンクリート表面への凹凸付与	ポリエチレンフィルム製専用シートを型枠に取り付け、コンクリート表面に凹凸を付与し、それがモルタルに食い込むことにより、はく離を防止する。	専用シートの廃材が発生するため、その処理対策を講じておく必要がある。

問題 17 JASS 15 の適用仕様のセメントモルタル塗りの塗り厚に関して、最も不適当なもの  
のはどれか。

1. 仕上げ厚では、天井・ひさしが12mm以下、その他の仕上げ厚は、25mm以下とする。
2. 1回の塗り厚は、標準6mm、最大9mm以下とする。
3. つけ送り厚さが25mm以下のとき、総塗り厚35mmを超える場合は、はく落防止措置を講ずる。
4. ALCパネル下地の総塗り厚は、20mm程度を上限とする。

問題 18 住宅瑕疵担保責任保険・設計施工基準の外壁の防水に関して、最も不適当なもの  
のはどれか。

1. 防水紙の重ね合わせは、縦、横とも90mm以上とする。
2. 直張りの防水紙を用いる施工では、JIS A 6005(アスファルトルーフィングフェルト)に適合するアスファルトフェルト430または透湿防水シートを使用する。
3. 通気構法の外壁に用いる防水紙は、JIS A 6111(透湿防水シート)に適合する透湿防水シートまたは、これと同等以上の透湿性能および防水性能を有するものとする。
4. サッシ、その他の壁貫通口等の外壁開口部の周囲は、ブチルテープ等の防水テープを用い、防水紙を密着させることとする。

問題 19 施工計画における施工手順、施工方法の決定手順に関して、最も不適当なものは  
どれか。

1. 事前調査結果から現場状況を把握する。
2. 最も良いと思われる施工方法案を作成する。
3. 施工手順、組み合わせ機械・設備の検討を行う。
4. 工程・工賃・安全性の総合評価を行う。

問題 20 発注プロセスにおける工場立会検査で確認する事項に関して、最も不適当なもの  
はどれか。

1. 製作図が打ち合わせ通りに作成されている。
2. 設計図、仕様書に合致している。
3. 工事上の作業性、保守上の使い勝手を考慮し製作されている。
4. 試験成績の数値は規格に合致している。

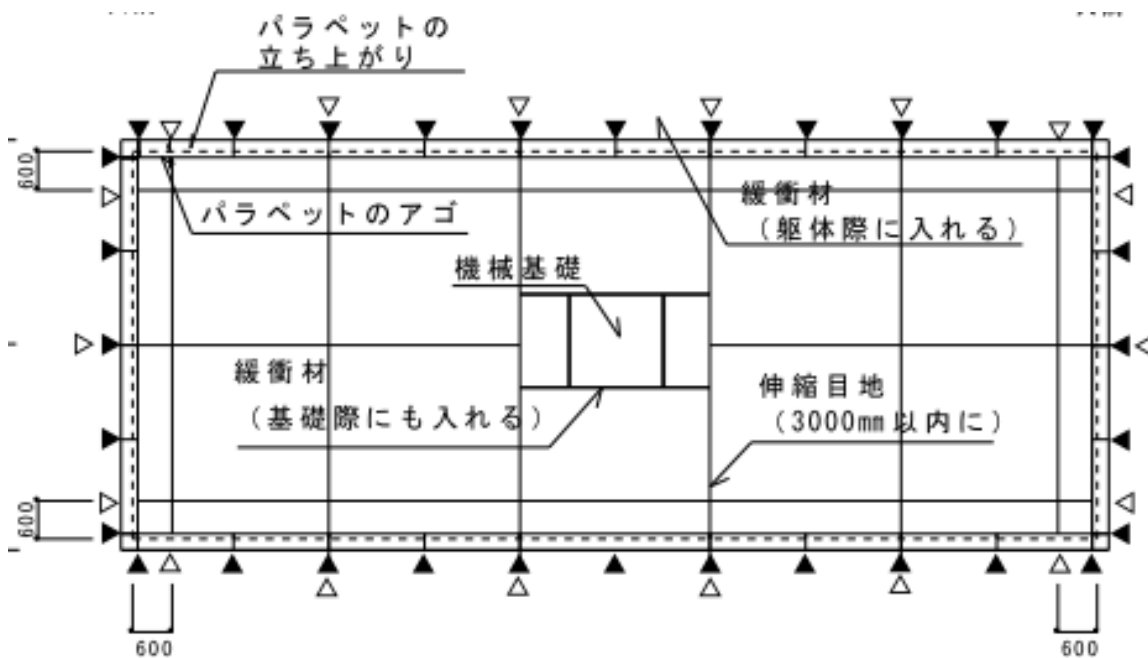


問題 2 1 建設工事費の構成に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 共通仮設費は、各工事種目に共通の仮設に要する費用であり、現場事務所や仮囲いにかかる費用やさまざまな準備費を指している。
2. 現場管理費は工事施工に当たり、工事現場を管理運営するために必要な費用である。
3. 一般管理費に現場従業員の給与手当等や労務管理にかかる費用なども含まれる。
4. 一般管理費とは工事施工に当たる受注者の継続運営に必要な費用としての一般管理費と付加利益を指している。

問題 2 2 下図のような屋上パラペットの誘発目地及び屋上保護コンクリートの伸縮目地の入れ方に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 屋上のパラペットは、外気温の影響を受けやすく、伸縮クラックが発生しやすい。
2. 機械基礎の周りには、必ず緩衝材を入れ、伸縮目地も機械基礎に合わせて配置する。
3. パラペット立ち上がりに最も近い伸縮目地の位置は、全体の割り付けに合わせて 2 m 以内に設置することが望ましい。
4. パラペットの立ち上がりには、全て緩衝材を入れ、コンクリートの伸縮に追従させる。



**問題 2 3** わが国建設業における労働災害の現状に関して、次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 建設業は装置型産業に分類され、単品受注生産であるため、安全対策の規格化や標準化が単純である。
2. 労働災害減少の1つの要因として、安全に作業するための機械、設備、工具などの開発があげられる。
3. わが国建設業における死傷者数は、この半世紀で8割以上減少した。
4. 総合工事業者が安全対策上の最重要課題として、安全意識の高揚があげられている。

**問題 2 4** 法で定められた建設現場における安全管理に関して、次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 複数業者が混在する50名以上の現場の安全管理では、統括安全衛生責任者を選任する必要がある。
2. ガス圧接作業を行う場合、作業主任者の配置は特に必要ない。
3. 事業者は作業員を雇い入れた時、作業員に対して、その従事する業務に関する安全衛生教育を実施する必要がある。
4. 複数業者が混在する現場の1次下請けや2次下請けの業者は、安全衛生責任者を必ず選任する必要がある。

**問題 2 5** 各種労働災害防止対策に関して、次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 高さ2m以上の開口部には、手すり、中さん及び幅木（必要な場合に限る）、落下防止ネットなどが設置しなければならない。
2. 移動式クレーンの上部旋回体の作業半径内に作業員を立ち入らせてはならない。
3. リフォーム工事では、電気やガスなどを止めずに作業を行うので、極めて安全に施工できる。
4. 高さ2m以上の所で足場作業や鉄骨作業などを行う場合、必ず作業床が設置しなければならない。